

ベーチェット病と新型コロナウイルス (COVID-19) 感染症に関する情報

新型コロナウイルス (COVID-19) の流行に伴い、ベーチェット病への影響はどうか不安を持つ患者さんも少なくないかと思えます。一般的に言われているマスクの着用、手指消毒の徹底、三密（密集、密接、密閉）を避けるなどはベーチェット病の患者さんでも変わることはありませんので、本ホームページでは、できるだけベーチェット病に関連する情報を中心にお伝えしたいと思います。

今後、情報が蓄積されるにつれ、その内容も変わる可能性があることについては、ご承知おきください。

Q1. ベーチェット病患者は感染しやすいか？

現時点で、ベーチェット病が特に COVID-19 に罹患しやすいというデータはなく、その情報も限られています。

Q2. ベーチェット病の治療は COVID19 感染に影響するか？

ベーチェット病に対する治療薬、コルヒチン、副腎皮質ステロイド薬、免疫抑制薬、TNF 阻害薬により、COVID-19 にかかりやすくなるというデータはありません。感染の疑いがなく、特に担当医からの指示がない場合は、これまで通りに治療を継続してください。

また、万一感染したさいには、患者さんの状況に応じた対応が必要になります。ベーチェット病の治療薬に関しては担当医と連絡を取り、投薬の指示を受けてください。自己判断での中止や減量は禁物で、特にステロイドは中断しないようにして下さい。特に重症化した場合、日ごろのかかりつけの病院と別の感染症指定医療機関に入院する可能性もありますので、入院担当医と日ごろの主治医との間で十分連絡を取っていただくことも重要になります。

Q3. もし、COVID19 感染に罹った場合、ベーチェット病でない人より重症化しやすいか？

また、ベーチェット病自体が悪化する可能性があるか？

これまでの報告例が少なく、現時点ではこの疑問に対する答えはありません。

本学会および厚生労働省ベーチェット病に関する調査研究班においても情報を蓄積していきたいと思えます。

参考：

国際ベーチェット病学会 (International Society of Bechcet' s disaes: ISBD) の HP 上で、症例集積が呼びかけられており、以下の症例が報告されています (2020 年 4 月 20 日)。

<http://www.behcetdiseasesociety.org/menu/57/clinical-experience-of-bd-and-cov%4%B1d-19>。

症例1 オランダ 21才女性。COVID-19肺炎のため入院。8歳時に発熱と口腔内アフタで発症し、その後、会陰部潰瘍、膿疱、神経症状、手のコンジローマ、疣贅を呈し、長期にわたりプレドニゾロンと抗TNF抗体（**Remsima®**、インフリキシマブバイオシミラー）で治療されていた。患者は上気道感染症にかかりやすいと訴えていたが、心血管疾患、肥満などの既知のCOVID-19感染のリスク因子は特になかった。7日間の入院で、抗菌薬、酸素投与を受け、完治した。臨床的な血栓症は見られなかった。

症例2 オランダ 54才男性。重篤な呼吸器症状のため3週間入院した。22才のとき、口腔および陰部潰瘍、皮膚病変、針反応陽性、HLA-B51陽性、深部静脈血栓症などよりベーチェット病と診断され、以後、局所療法、コルヒチンおよびのちに追加されたアザチオプリン治療で良好に経過していた。2020年はじめに鼻咽頭癌と診断され、化学療法2コース終了後、発熱、咳嗽、呼吸困難をきたし、急性呼吸不全のため入院した。COVID-19による両側性肺炎と診断され、抗菌薬、酸素吸入で治療され、3週間で退院することができた。4人の同居する家族のうち3人が感染していた。

関連情報 リンク先

日本リウマチ学会

https://www.ryumachi-jp.com/information/medical/covid-19_2/

日本炎症性腸疾患学会

<http://www.jsibd.jp/office.html>

日本感染症学会

http://www.kansensho.or.jp/modules/topics/index.php?content_id=31

日本環境感染症学会

http://www.kankyokansen.org/modules/news/index.php?content_id=328